



コミセンレポ — コミセン、和白5校区などの注目情報です —

コミセン発のイベント 是非ご参加ください！

コミセン発のイベント。秋から冬も、さまざまな世代の方が楽しめる趣向で行います。まず体育の日に行うのが、シニアのみなさまの健康や体力づくりを考えるイベント「シニアトライアスロン」。いろんな競技のほか、今回は食育など日々のからだづくりを考える趣向も準備しています。10月後半は「わじろ地域大学」。こちらは人気で定員間近です、ご希望の方はお早めに！8月に吉永小百合特集でお送りした「わじろ映画館」は、前回好評だったシニア路線でお送りします。懐かしい青春の日々をご堪能ください。

そして大注目は初開催のニュースポーツイベント『シビリンピック』。地域のみなさんと市内の地域交流センター3館が行う新しい交流イベントです。エントリーは9月開始です！…とたくさん書きましたが、コミセンわじろでは地域のみなさまが楽しめる、交流を深めることができる、さまざまなイベントを行います。みなさまの参加があつてのイベントです、是非参加していただいて、地域を盛り上げてくださいます。お待ちしております！

シニア	10/14(月・祝)	シニアトライアスロン
親子	10/26(土)	わじろ地域大学プログラム4「秋の芋ほり大会」
シニア	11/5(火)	わじろ映画館上映「いつでも夢を」「絶唱」
全世代	11/17(日)	シビリンピック2019 in わじろ



▲ 昨年のシニアトライアスロンでは、さまざまな競技を実施。



▲ 芋ほりのイメージ



▲ わじろ映画館の観客の様子



コミセン活用術 — 私たちの施設を使って、もっと身近に —

和室の椅子 和室の静かな人気者登場！

お茶や和服など和の文化の活動、また控室や小規模なミーティングなど、みなさまにさまざまな使い方をさせていただいているコミセンわじろの和室。実はちょっと前から、コミセンわじろの和室で利用者のみなさまに人気のアイテムがあります。それはこの畳用の「椅子（いす）」なんです。

幼い頃からいろんな場面で親しんだ正

座の姿勢も、シニアのみなさんには少し負担になるというか。長い時間にもなると辛いことも多いそうです。でもこの椅子があれば！活動や話し合いの際にも、負担が軽くて済みそうですね。

この椅子、和室一部屋につき2つ、二部屋借りると合計4つ使用することができます。楽しい活動の御一助に。和室をご利用の際は是非お使いください！



▲ 腰掛けやすくて、座り心地も好評。

コミセンわじろ
WAJIRO Regional Community Center



公式HP facebook

〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘1丁目22-27

☎092-608-8480 FAX:092-608-8485

【開館時間】午前9時から午後9時まで(多目的ホールは午後10時まで)

【休館日】毎月最終月曜日(祝日のときは翌日)、及び年末年始(12/28～1/3)

より詳しい情報は、コミセンわじろ公式ホームページをご覧ください。

公式HP <https://wajiro.info>

facebookでも、コミセンわじろの日常を発信中！

facebook www.facebook.com/komisenwajiro



福岡市和白地域の魅力、活動サークルの紹介など
みなさんの活動に役立つ情報を発信します

地域とあなたが、もっとつながる

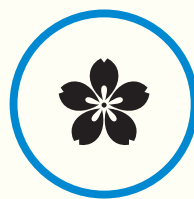
「ワジコ」
wajico vol. 26
2019 Autumn

pick
up

わじろじまん これからが旬！「奈多いも」

わじろ元気印 美和台おやじの会『この指とまれ委員会』



地域  文化

わじろじまん

— 地域にある、次に伝えたい「誇り」をご紹介します —

奈多いも **これからが旬！**


①雁岐(がんぎ。雁木とも書く場合あり)を切った状態の畑。それぞれの盛った部分に植えることで、奈多いもが良い品質で育ち収穫できる。

わじろ地域は現在でも農業が盛んですが、生産物の中でも代表的なのが、奈多地域で育てられている「奈多いも」です。古い文献に記述が残っていたり、現在でも地元の子どもたちも参加しながら育てたりと、地域の自慢、宝として受け継がれています。今回のわじろじまんは、この「奈多いも」を紹介します。

200年前の記録に残る、いもづくり

1819年、今からちょうど200年前、今林彦次郎という人物が、粕屋の地にいもの育て方を発明し伝授したという文献が残っています(参考文献名：『粕屋郡史』大正15年発行)。そもそも奈多地域は砂地であり、米など主要な作物が獲れない土地であり、昔は綿(わた)をつくっていた記録もあります。そこから明治の時代に



▲ 奈多小学校のMAP

なり、むしろ砂地だからこそ適しているいもづくりが始まっていったのだそうです。江戸末期に起きた飢饉(ききん)の際にも、いもは多くの人々の命を救ったこともあるそうです。では現在でも評判の良い奈多いもは、何か特別な品種なのでしょうか。

特徴は「植え方」にあり！

「品種は特別じゃない。奈多いもの特徴は、植え方です」と教えてくれたのは、元農協職員で、現在も子どもたちに奈多いもの良さを伝えている今林善次郎さんです。特徴的な言葉は『雁岐(がんぎ)を切る』という言葉です。畝(うね)と畝の間に、土を盛った山をつくり、そこにいもを2、3本ずつ植えます。この栽培方法が奈多いもの最大の特徴です。従来の方法に比べて収穫量も増え、味のいいいもができます。当時の農家の方々が奈多いもを博多のまちにつくって売ったことから評判が広がり、奈多いもは有名になりました。

先輩たちと一緒に、いもを食べる

奈多地域では30年前から、地域の役員の皆さん、OBと一緒に小学校での奈多いもの栽培を毎年行っています。子どもたち



②今年の奈多小学校での、奈多いもを植える風景。

ちと栽培した奈多いもは、秋にももちろん収穫。雁の巣で焼き芋にして味わうなど、代々その良さを受け継いでいっています。10年前から地域の先生としてこの大切な取り組みに参加し指導している今林さんに、奈多いもの良さと、地域を自慢していただきました。

「奈多いもは、文献でも残っているように、地域の人々の命を救って、暮らしを助けた大切な存在です。もちろん農家の方々が栽培から何から手をかけているから、味が良い。甘いんです。いもの種類が一緒でも、こんなに味が良くならない。私たちはこれが日本でもここだけのものだと思います。」

そんな貴重で美味しいものが、自分たちのまちにある。そのことを子どもたちも忘れずに大きくなって、また自慢して欲しい。今林さんは笑ってそうお話ししてくれました。この号が出る9月頃には、歓声をあげながらも掘りをする子どもたちの姿を見かけることができそうです。



この方に聞きました！

今林 善次郎さん

お芋に詳しい方

地域  団体

わじろ元気印

— この地域で「力いっぱい」活動する団体の情報 —

美和台おやじの会 **この指とまれ委員会**

地域のいろんな活動の際に、お揃いのポロシャツを着て、声を出しながらにぎやかに動く「おやじ」たち。イベントに活気をもたらす逞しいおやじのみなさんは、既に頼もしい元気な存在として認識されています。会のきっかけや活動について、副委員長の今林幸平さんに話をうかがいました。

Q 会の発足について教えてください。

そもそもは2001年の夏です。当時の美和台小学校の校長から「小学校でもあっていいんじゃない？」ということで。美和台

小学校のおやじの会ができて。2003年には「この指とまれ」の名前が生まれています。最初は飲み会でできれば、ぐらimageでしたが、全国にも先駆けての、おやじたちの動きになりたいということで。PTAと協力体制でやっています。私自身は2010年頃からこの会に関わっていますね。

Q 現在の活動について教えてください

普通のおやじ、子育ての父親世代は、仕事盛りですから地域に出ることが少ない



▲ 地引網イベント風景。名島や和白東など、複数のおやじの会のメンバーも参加



応援課だより

— 地域がつながる、盛り上がる活動を応援 —

スポーツ応援 **試合運営のサポートも準備中！**

地域で盛んに行われているさまざまなスポーツ。現在でもコミセンのスポーツ指導員が、公民館などで健康体操やレクリエーションのお手伝いをしていますが、新たなサポートへの取り組みを準備しています。

そのひとつが、スポーツの試合に必要な知識や実技を学び、活かすことです。先日、東体育館で行われた「東区子ども

会親善ドッジボール大会」に指導員がサポートで参加、タイマー係を行いました。子どもたちを中心に盛んに行われるドッジボール、中学生や大人が参加するソフトボール、野球など、地域には地域のみなさんが交流するスポーツがたくさんあります。その交流を応援すべく、応援課は審判など重要な部分も担うことを目指します。

ですよ。自分の子どもでさえ相手できないことも多い。でもうちの会は、よそのおやじがよその子どもも相手する。なのでうちの娘も「お父さんいつも学校にきとるね」と喜んでくれた。認めてくれたんです。認めてくれたらボランティアでもなんでもやれる気になります。校区キャンプ、海での地引網、志式神社での鬼ごっこなど。よそのおやじの会の事例で良いのがあったら、徹底的にやってみる。すると評判が広がり、他の校区やネットワークにも活動がさらにつながっていくんですね。

Q 地域のおやじたちへメッセージを

地域に馴染めないなと思ってても、本当はそうしている、住みにくくしているのは自分自身なんです。是非勇気を出して一歩踏み出して欲しい。そうすると、お父さんの関係性だけでなく、親子のコミュニケーションも密になります。あそこの子も、うちの子も、地域みんなで育てましょう。



この方に聞きました！

今林 幸平さん

美和台おやじの会
『この指とまれ委員会』
副委員長

ご相談やお問合せはコチラまで

☎ 092-608-8480
✉ support@wajiro.info



▲ トレーナーがタイマー係を担当。